

令和二年度医学研究助成金・外国人留学生奨学金の授与式を開催

令和二年度肥後医育振興会医学研究助成金及び肥後医育振興会外国人留学生奨学金の合同授与式が、令和二年十一月五日に肥後医育記念館二階展示室において行われ、西理事長から医学研究助成金三名、外国人留学生奨学金四名に対して、各十五万円が受賞者ひと



り一人に手渡されました。また、それぞれの受賞者の代表者から謝辞及び今後の決意が述べられました。

令和二年度熊本大学病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成事業報告

熊本大学病院
総合臨床研修センター長

向山 政志

平素より、熊本大学病院群卒後臨床研修プログラムの研修医指導にご協力いただき、誠に有難うございます。

令和二年度は一年間にわたって、県内全ての医療施設が新型コロナウイルスの対応に追われた年であったと思います。患者さんの診療、および感染拡大防止にご尽力されている医療従事者の皆様に改めてお礼申し上げます。令和二年度の熊本大学病院群のマッチ者は十八名（採用者十七名）であり、大学以外の基幹病院での初期研修を希望する流れに変化はありませんでした。

一方、熊本県全体としての令和二年度マッチ者数は百名（採用者九十八名）と昨年度からマッチ者は十二名増加（採用者二十二名増加）しており、熊本市内・市外の基幹型研修病院の人気の復活が見てとれます。これと並行し

て、医師三年目に進路選択をする専門医プログラムにおいても、ここ数年の採用者（熊本大学入局者）は百名前後で推移しており（新専門医制度開始前は八十名程度）、県内での医療活動を目指す若手医師はむしろ増加傾向にあると考えられます。

この一年間は、熊本大学病院群臨床研修医、熊本大学医学部生とも、コロナ禍のなか、これまでとは異なる研修・実習を余儀なくされました。そのなかで、災害下における医療への意識、地域医療と多職種ネットワークの重要性を改めて感じたのではないかと思います。そして、県内にとどまり臨床医であるいは研究医として活動を行う志向性が高まっていると感じます。また、熊本大学病院臨床研修医の獲得を目指して、令和三年度に行う募集（令和四年度プログラム）からプログラムを大幅に変更し大半を「自由設計コース」として新設、個々の希望に合わせて研修病院（三つまで可）・研修期間・診療科の選択が自由にできるようにしました。今後刻々と状況が変わりゆくなか、当卒後臨床研修プログラムが県内の医師育成に貢献できるよう、さらに努力していく所存です。肥後医育振興会の皆様には、今後ともご支援、ご指導を

よろしくお願いいたしますとともに、この状況が一刻も早く終息することを願っております。

第20回熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップを開催

熊本大学医学部医学科長

尾池 雄一

熊本大学医学部医学科医学教育FDワークショップ（FDWS）は、医学教育に携わる大学教員の教育能力を高め、大学の組織的改革を目的として、二〇〇〇年に第一回が開催されて以来毎年開催されており、今回の開催が二十回となりました。

過去のFDWSでは、熊本大学医学部医学科の学修成果、教育方法、学生の評価方法、診療参加型臨床実習の充実等についての議論がなされ、その成果は学修成果の策定、統合卒業試験の導入、臨床実習の充実等に繋がっています。また、二〇一七年度、二〇一八年度、二〇一九年度は日本医学教育認定評価評議会（JACME）による医学教育分野別評価についての議論がなされ、その成果は自己点検評価書作成や実地調査に生かされ、七年間の認証